

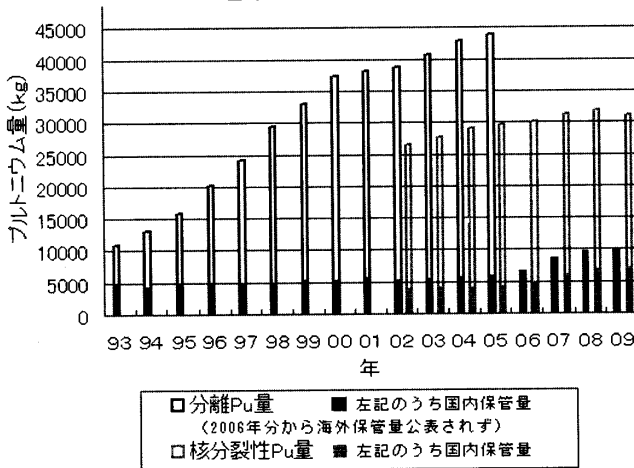
プルトニウムはやっぱりもの

これまで各電力会社は使用済み核燃料を英仏の再処理工場に送り、プルトニウムを抽出してきました。さらにその上、青森県六ヶ所村で再処理工場を稼働させて使用済核燃料からプルトニウムを取り出す計画で、最終段階の試験が行われています。日本が保有するプルトニウム量は、核分裂性でなんと三十一トン（二〇〇九年末）にも及びます。仮に六ヶ所再処理工場がフル稼働すれば、毎年四トン強の核分裂性プルトニウムが追加されます。プルトニウムは、軍事物質でもあるため余剰を持たないことが国際公約になっています。プルトニウムは、利用の本命であった高速増殖炉の開発が遅れたことから、エネルギー資源ではなく使い道のないやっかいものになってきました。

そこで考えられているのが既存の原発でプルトニウムを燃やすプルサーマル計画。二〇一五年までに一六〜一八基の原発で実施する予定で、玄海原発を皮切りに各地で強行されています。

「準国産エネルギー資源」であったプルトニウムは、事実上厄介

日本のプルトニウム保有量



もののごみとして燃やされるのです。しかし、ひとつの原発で燃やせるプル
ニウム量は少量で、余剰解消の切り札にはなりません。もともとウラン燃料で
設計された原発に当初の想定でない燃料を入れるので、制御棒の効きが悪くな
る、出力が局所的に高くなるなどの安全上の問題が心配されています。また、
プルサーマルの使用済核燃料は再処理のめどもなく、原発のプールに置いてお
くしかありません。

青森県六ヶ所村でプルサーマル燃料製造工場の建設が始まりましたが、当
面、使用されるプルサーマル燃料は、海外再処理で分離したプルトニウムを用
いてフランスの工場で製造され、世界を半周して原発へ海上輸送されます。

事故に巻き込まれて燃料が変形した場合、臨界事故の可能性があると指摘さ
れるなど、輸送中の安全の保証はありません。過去に関電と東電のプルサーマ
ル燃料が輸送された時などにも、輸送ルート沿岸の多くの国々は反対を表明し
ました。

プルサーマル計画の現状(2010年10月末現在)

電力会社	予定原発	国の許可	地元の同意	現状
関西電力	高浜3号	1998年12月16日	1999年6月17日	実施中の定検で8体装荷予定 2010年6月 4体搬入
	高浜4号			
東京電力	福島第1	1999年7月2日	2010年8月6日 再了解	1999年 32体搬入 2010年9月実施 上記の32体
〃	柏崎刈羽	2000年3月15日	白紙撤回	2001年 28体搬入
九州電力	玄海3号	2005年9月7日	2006年3月26日	2009年11月実施 16体
四国電力	伊方3号	2006年3月28日	2006年10月13日	2010年3月実施 21体
中部電力	浜岡4号	2007年7月4日	2008年2月29日	実施中の定検で28体装荷予定
中国電力	島根2号	2008年10月28日	2009年3月24日	2009年9月 燃料製造契約
北海道電力	泊3号	2009年3月9日申請	2009年3月5日	2009年3月 燃料製造契約
東北電力	女川3号	2010年1月8日	2010年3月7日	—
北陸電力	志賀1号	2010年6月28日申請	協議中	—